

## 低炭素社会 —省エネルギー時代における木材産業

角 博



ひと昔前、少なくとも私が大学を卒業した昭和60年代から平成一桁ごろまでは、子供達の描いた環境問題についてのポスターに“木の切り株が泣いている絵”や“森や山が荒れている絵”が多く見受けられたように、人々の多くは「木を切ることは環境に悪いことだ」という認識を持っていたように思います。

しかし近年、京都議定書の採択により、日本のCO<sub>2</sub>削減目標6.5%が国際公約され、そのうち3.8%が適性に管理・整備された森林でのCO<sub>2</sub>吸収となったことを契機に温室効果ガスの削減による地球温暖化防止が日本全体そして地球規模で叫ばれるようになりました。つまり日本の山・森林を再生し、間伐材を中心とする国産材をどんどん使っていくことが大切であるという認識がいろんな分野で芽生えてきています。

消費者サイドの国産材需要拡大の応援活動である「木づかい運動」、農林水産省・環境省がすすめる「見える化」、経済産業省のC.F.P（カーボン・フット・プリント）、国土交通省のすすめる長期優良住宅の普及促進、環境NGOの取組みなどをみても「木を使うことは日本の山を再生し、CO<sub>2</sub>削減や固定化に貢献するんだ」という認識が国民的に広がってきている証であると感じています。

また林野庁のアンケート調査をみても、“終の棲家はどんな住宅が良いか”との問いには、ほとんどの方が「木の家」に住みたいと答えています。日本人のDNAには木の文化がしっかりと刻まれているように感じてなりません。

現在、木材産業界には順風が吹いています。この風をしっかりととらえ、世の中のニーズや流れにマッチした製品作りが出来るか、その真価が問われる時代に突入しています。ま

た低炭素社会の実現に向け、国産材が積極的に取り入れられていくかどうか、そのひとつの鍵となるのは政治的な決断であると思っています。

例えば、ハイブリット車を購入すると免税になるように、国産材を使った住宅を購入すると免税や減税になるとか、国産材を使った木製サッシを住宅建築部材として購入するとエコポイントがたまるなど、国産材が低炭素社会の中で中心的な役割を果たせるような様々な政策の実行が低炭素社会の実現においてとても必要だと思います。

そのためにも、木材産業に携わる企業は顧客の期待に応えるしっかりとした物づくりを行い、持続可能な国産材を使った製品を活用することの大切さを全木材産業界を挙げて消費者の皆様や子供たちに訴え啓蒙していくことが求められるのではないのでしょうか。

### (1)付加価値の高い製品の開発と体制づくり

木材を使っていこうという気運が高まる中、そのことを実需に結び付けていく為には、木材の長所を伸ばし、欠点を補う技術とその商品化が求められています。木材は生き物であり、1本1本1枚1枚性質も性能も違うわけですが、それを技術により補い一定の品質以上に均一化していく努力を積み重ね、顧客のニーズに応えていくことは企業の責務だと思います。腐朽劣化対応はもちろんの事、割れを抑制したり寸法安定性を付加したり、不燃化したりといった製品開発が求められてきています。

当社では木材の欠点である「割れ」「腐れ」を抑制し寸法安定性を付加し、総合的な耐久性をレベルアップした保存処理材木“エコアコールウッド”を九州大学農学部 樋口光夫

名誉教授の基礎研究を基に同教授が組織されました産・管・学（九州木材工業株式会社・福岡県工業技術センターインテリア研究所・九州大学農学部樋口光夫教授）の共同研究により実用化し、現在国産材の杉・桧に保存処理したエコアコールウッドを全国に販売しております。



エコアコールウッド注入管設備



(施工例) 愛知万博ガスパビリオン

また、エコアコールウッドに不燃処理を施した製品は平成20年1月17日に国土交通省より準不燃認定を取得し、現在その生産体制の確立に向け準備を行っています。また、顧客のニーズにしっかりと応え、品質の高い製品を安定して生産していく為に平成16年にISO9001・2008を本社・エコアコール部門で取得しております。

いずれにしても、住宅・建築土木分野をはじめ、木材の利用がまだまだ低位な分野での需要を高めていく為にも、木材の欠点を克服し、機能的にもデザイン性も優れた木材製品の供給とその体制作りがこれからの木材産業にとって大切だと考えています。

## (2) 持続可能な国産材を活用した安全で安心な製品づくり

### ① 持続可能な国産材を活用した製品づくり

低炭素社会の実現に向けては大量生産、大量消費の社会とは異なり、CO<sub>2</sub>の削減や固定化など地球環境を考えた社会づくりにむけた国民的な運動と理解が大切だと思います。そのためには、日本の国土保全のことも含め各産業界が利害関係を超越して、国産材の活用を考えていく必要があると思います。その中でも質・量ともに国産材の活用が期待できるものに、住宅建築用の材料や建設土木資材があると思います。長期優良住宅の建築材料としても土台や構造材、外壁材、内装材、ボードや合板、下地材などあらゆる箇所に国産材の利用の可能性が十分に認められますし、子供達の体や精神にも優しく、インフルエンザ等の予防や精神的な安定としてもその効果が確認されていますので、学校の校舎の建築資材や内装材としても物凄く大きな潜在的な需要があると思います。



当社敷地内に設置している木製ガードレール  
(エコアコールウッド杉を使用)

また、土木資材としてはアメリカやオーストラリアなどで現在も多量に使用されています。木製ガードレールや遮音壁としての活用があります。

いずれにしても、持続可能な国産材を使用した材料や資材は環境負荷が最も小さい材料であり、CO<sub>2</sub>の貯蔵効率も高いので、各方面とのコラボレーションを図るなどして、商品化に早く取組む必要があると思います。

## ②産地証明とトレーサビリティ

近年、性能や産地偽装問題を中心とする不正ごまかしや改ざんなど、消費者を無視した事件が多発し、製品に対する安全と安心そして企業に対する信用と信頼が大きく揺らいでいます。また、そのことが影響して、企業が倒産に追い込まれるケースは枚挙にいとまがありません。

木材業界においても、合法木材の証明や国産材の証明の制度が確立されてきました。また、世界的には森林の認証制度も普及拡大してきています。

当社では、そのような制度に依存するだけではなく、八女地区の木材組合や森林組合と協力連携して、独自の産地証明システムを開発し、山元から出荷まで徹底した管理を実現し、トレーサビリティが可能な生産体制をとっています。今後は、尚一層わかりやすく、正確な情報を消費者に発信していくことが、木材産業にも求められていくと思います。



山元での産地材確認作業



日刊木材新聞の記事（平成21年1月9日付）

## (3) Made in Japan を世界へ

先ほどふれました製品に対する安全と安心、企業に対する信用と信頼を全世界的な観点でみていくと、日本製ほど品質が優良で安全性も高い製品は他にはないと思います。

昨今は特に中国や香港・台湾を中心に、高所得者が価格を度外視して日本製や日本で栽培され捕獲された農水産物を購入しているようです。

今や、Made in Japan は他に類を見ない安全で安心なブランドとして、全世界において信用・信頼を獲得しています。

木材製品についてはどうでしょうか。安くて大量に生産される海外の原材料や製品を輸入することはあっても、持続可能な国産材や加工製品を海外に輸出することはあまり行われていないのが現状です。

日本の豊富な資源である木材、そして日本の技術を駆使して生産される木材加工製品を世界のブランド“Made in Japan”として、積極的に世界へ輸出していくことが可能な時代になってきたと感じています。適切に管理された森林で育った木材や、日本独自の技術を施し安全と安心を備えている日本の工場生産された Made in Japan の木材製品を、海外へ輸出することが、地球温暖化防止や資源の枯渇という地球規模の課題とがあいまって、今まさに現実味をおびてきたと感じています。

特に、地理的にも有利な中国・韓国・東南アジア・ロシアへの輸出には大きな期待が持てるのではないかと思います。

(すみ ひろし：九州木材工業株式会社

代表取締役社長)